

令和元年度 備前保健所運営協議会議事概要

日時：令和元年7月24日(水)

場所：おかやま西川原プラザ

出席者：委員20名 事務局17名

<発言要旨>

議事1) 備前保健所運営の概要

2) 意見交換、質疑応答

会長：以上の説明について皆様から御意見等いただければと思いますがいかがですか。

委員：保健所の仕事は本当に大変だと思いました。細菌検査の中で血液検査があるが、医療機関でスタッフが HIV や肝炎の患者さんの針刺し事故が起きるリスクがある。迅速検査と資料に書いてあるが、どれくらいの時間でできるのか。血液を持ち込むと検査をしてもらえるのか。

事務局：血液をもらって1時間程度で結果を出すようにしている。

委員：備前保健所では検査が第1・第3金曜日となっているが、緊急の場合は血液を持ち込んだら検査してもらえるのか。

事務局：保健所では病院等から血液を持ち込んで検査をする体制にはなっていない。

委員：HIV の罹患率はどれくらいなのか。何百人もいると思うが。

事務局：針刺し等があれば医療機関で緊急で検査をしてくれる。陽性であればグロブリン、ワクチン、治療薬を投与する。保健所で検査を行う場合で針刺し等があれば、契約している医療機関へ針刺しを受けた者を連れていき、必要な処置をしてもらうようにしている。医療機関、歯科医院で針刺しなどあった場合には、普段から提携している病院があればそちらで処置をしてもらえばよいが、わからない場合には保健所で医療機関の検査等対応できる病院を紹介できる。基本は比較的近い病院で検査ができるかをあらかじめ聞き、お願いをしておくことがよいと思う。

委員：早い時間の対応したほうがよいと言われるが、薬とかはどこにあるのか。

事務局：大きな病院にはあると思う。エイズ拠点病院である岡大とか川崎医大とか、済生会や日赤にもあると思う。

会長：他にありませんか。

委員：覚せい剤の乱用防止の話があり、全国の集計なのか 3578 名の数字、若年者が半数以上を占めるとの話があった。丁度警察の方もおられるので、備前保健所管内の状況はどうか、若年者が多く占めるのか。地方と全国では傾向が違うのではないかと感じるが。管内でも中高生も気をつけていかなければいけないレベルなのか。

事務局：先ほどの数字は大麻の全国の数字。県警の資料では昨年県内の大麻の検挙人員は 47 名、全国レベルでは 25 年以降では倍増、1500 件くらいだったが約 3500 件となっている。

県内の検挙件数は 26 年 47 名、27 年 44 名、28 年 30 名、29 年 42 名で大きな増減はない。年代別検挙人員は 30 歳代以下が全体の 80.9%、20 代以下が半数まではいっていない状況。

覚せい剤に比べると若年者の使用が大麻では高い。危険ドラッグも同じような傾向、インターネットで手軽に見られるため、間違った知識であまり害がないといったネット情報から容易に手を出してしまう状況があるようだ。

委員：備前署管内では昨年の中高生の薬物乱用の把握はしていない。県下の状況は数字を用意していないので調べてみないとわからない。

会長：他にどなたか意見はありませんか。まだ時間がありますのでどなたかご意見をどうぞ。

委員：児童虐待予防において歯科医としてもネグレクトの発見の協力をしたいと思っている。乳幼児健診、小学校の歯科健診に行くこともあるが、乳幼児の健診で気になる事例はあまりないが、小学校では首をかしげるような子も時々おり、養護の先生や担任に話をするが、そこで止まってしまう。治療指示書が出る段階でもう少し対応する方法があれば良いのではないかと思う。低学年で虫歯罹患がある児童は学年が上がるにつれどんどん悪くなる傾向があるが、その情報が伝わっていないのではないかと思う。小学校健診でデータを出すと 6 年生までで終わる。虫歯の単純な数で見ると高学年になると減る、原因は永久歯に生え変わるから。グラフにすると高学年になると虫歯が減ると見えてしまうので注意が必要だと話しているが、小学校で虫歯をつくると中学校でも虫歯をつくってしまう。虐待についても歯科医も言える機会もある。

愛育委員、栄養委員もおられるが、10月13日に和気町健康福祉フェア、11月9日に備前市の子ども応援フェスタと健康福祉祭りがあり、保健所もこれだけの仕事をしているのだからパネルなども出していただければよい。和気歯科医師会もブースを作るのでよろしくお願ひしたい。

愛育委員、栄養委員主催のイベントで話をする機会があるが、その場では若い母親からの質問が出にくい。認定こども園での講話ではたくさん質問がでる。なぜだろうか、その理由を考えてほしい。はっきり言って姑よりも年上の年寄りの目が光っている。平和に地域での子育てをやっているのに、やってやっている感満載、みんなで育てていこうという雰囲気がない。インターネットでも知識を得てもらえたらよいと思う。自治体によっては祖父母手帳もあるので検索してほしい。下の子が生まれ一番上の子に虫歯をつくるのはじじばば。おかあさんは一生懸命我慢させてやっているのに。

会長：ありがとうございます。これに対して何かありますか。

委員：栄養委員も愛育委員も頑張っている。食育を通して口腔ケア、飲み込みやすい食事の提供。子どもたちのことも今年度東備栄養委員会では歯科医師を講師に勉強をしている。今までも随分活動してきたことを知ってもらいたい。和気町では健康フェア2年目となり、野菜をしっかりと食べて、口を清潔にしようとして普及していきたい。東備栄養委員会でも一緒に健康づくりに精を出していきたい。栄養委員の宣伝をしてくれてありがたかった。栄養委員会は県内では愛育委員や民生委員とはちょっとランクが下がっており、栄養委員のことをこの中にも知らない方もいると思う。皆様と一緒に健康づくりをしていきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

会長：ありがとうございます。保健所の方から今の話を聞いて何かありませんか。

事務局：健診で虫歯があり養護の先生、担任の先生で止まっているという意見もあったが、各市町の要保護児童対策協議会でも気になる子、親の検討をする場があるので、そのような場にも情報を入れていく声を出していきたい。いろんな場面で歯科医を活用してほしいという意見はありがたい。

事務局：歯から発見されるネグレクト、歯科検診は虐待の大切な発見のきっかけになる。なかなか市町村等行政に情報が届かないということも課題。児童相談所は敷居が高いということもあるかと思うが、市町村でも情報を受け取ることになっている。子どもの健やかな成長のためにも勇気を出して伝えてもらいたい。市町村に情報提供をしたからといって直ちにその家庭に踏み込むということはなく、市町村で見守ることもできる。健(検)診情報を伝えてもらいたいし、養護教諭や学校で把握した情報も行政に伝え

てもらいたい。医療情報が入ってこないことも岡山県の課題。一方で岡山県でネグレクトが多いのは、細やかに虐待の視点で子どもの状態をキャッチできる県民性があるということ。口の情報から虐待を拾っていくということを住民にも関係機関へも啓発していきたい。

愛育、栄養の平均年齢が高い地域もあり、地域のお母さんというより、地域のおばあちゃんという年代での役割を担っていただけるよう口腔保健、衛生、フレイルなどの研修を積んでいただいているところ。知識が活動につながっていくように取り組んでいきたい。

委員：口からの虐待は愛育委員も頭において活動をやっているところ。愛育委員が主体でやっているイベントで意見が出にくいというのはどういうことか。気を付けてやっていきたい。

委員：若い母親が顔色をみている。あそこの嫁は何を聞いているのかという話になる。年齢差があるのは仕方がない、お互いに打ち消すようなお付き合いができればいいのにとと思う。

老人施設に話をすることもあるが、二度と呼ばれなくなる。職員が面倒になってくるから。保育園でも同じ。ネグレクトぎみの親に話をさせてもらえないかと言っても、園長も変わる、市町村も担当が変わるので、申し送りが十分でなく先送りされている。放課後に親がいない家庭は子どもが集まりやすい良い環境、冷蔵庫には砂糖の多いジュースが置いてあり、飲んで帰ると血糖値も上がり晩御飯を食べなくなっている状態。支援学校の親の意識は違う。支援学級の子どもが転校で支援学校へ入ってくると虫歯の状態が悪く、治療も困難なことも多いと思われる。支援学校の保護者は一般の子どもと遊ばせない。支援学級の子は一般の子と遊ぶ。虫歯を治療するのは難しく、歯科疾患の進行と身体の成長から不安要素も多くなる。親の覚悟がもう少し必要だと思う。

会長：他に何かありますか。

委員：総合行政という立場で話を聞いて勉強になった。どこの地域でも医療関係の先生、愛育、栄養、民生委員たくさんの方に助けてもらっている。参加者から子育ての中で本音の意見が出てこないとの話については、県の方と一緒に行事をしながら、参加者から意見を聞きやすい行事を考えていかなければいけないと改めて感じた。地域の中で各種委員の方は御苦労されていると思う。保育園・幼稚園・こども園、各種学校が家庭教育の方面も受け持ってもらっている。本日の御意見をもち帰り保健、福祉、教育につながっていききたい。

会長：他にはありますか。

委員：共感させてもらう意見もあった。保育園で歯の健診をして、支援を必要とする子どもの中に虫歯が多いと感じた時期があった。歯科健診の結果を保護者に返しても歯科医院に行ってくれない家庭にどのように働きかけるかが至難の業。給食が食べれない、痛くて泣く子にどのようにしていくのか。保護者に啓発していくが、参観日等園の中でそのような話を聞く機会を持つことは必要である。歯科衛生士の講演で支援の必要な子どもの親が講師に質問していた場面があった。園でできる歯磨き、口腔機能の筋肉を鍛えることを遊びの中で頑張っていることを保護者に伝えることで保護者との関係づくりをして虫歯のことも話をしていけるようになると思う。歯科医の協力をいただきながら一緒に進めていきたい。

会長：よろしいですか。他に意見はありますか。以上で全ての議事が終了しました。皆様御協力ありがとうございました。